

## 大腸癌腹膜播種に対する腹膜切除の適応基準

### 予後因子と適応基準

#### 組織学的所見

Peritumoral deposits, LN metastasis, differentiation, signet ring cell  
RAS, BRAF, MSI

#### 播種の腫瘍量と切除可能の程度

古典的には PCI<20 が適応

PCI<12 が最も適している、PCI=12-17 は他の予後因子を参考にすべき

CC-0 が得られる症例が適応、CC-1 は CC-0 が困難な場合に許容される

#### 多臓器転移の有無

肝転移、肺転移は相対的禁忌

腹腔鏡検査は、播種の範囲の検索や組織所見の確定に有用。

### 腹膜病変重症度スコア PSDSS (Peritoneal Surface Disease Severity Score)

#### 腹部症状

症状なし	0点
軽症	1点
重症	6点

#### 腫瘍量

PCI<10	1点
PCI=10-20	3点
PCI>20	7点

#### 組織所見

高・中分化型、N0	1点
中分化型、N1/2	3点
低分化型、印環細胞	9点

PSDSS=各項目の点数の合計 (2-22)

PSDSS 1<4, PSDSS 2=4-7, PSDSS 3=8-10, PSDSS 4>10

PSDSS 1 が最も良い適応、PSDSS 2 は適応あり。PSDSS 4 は適応外。

(Chicago Consensus on Peritoneal Surface Malignancies 2020 ASO より改編)